

諏訪市観光施設事業経営戦略

団 体 名 : 諏訪市

事 業 名 : 霧ヶ峰リフト事業

策 定 日 : 令和3年3月

計 画 期 間 : 令和2年度～令和3年度

1. 事業概要

(1) 事業形態等

法適（全部適用・一部適用） 非適の区分	非適用	事業開始年度	昭和40年
事業の種類	索道	施設名	霧ヶ峰リフト
職員数	1人		
事業の内容	・夏山リフト及び冬山リフトの運営 （ペアリフト2基、動く歩道1基）		
年間利用状況 ※単位を明記すること ※過去3年度分を記載	R1 122千人	H30 132千人	H29 131千人
経常収支比率 （又は収益的収支比率） ※過去3年度分を記載	R1 100.0%	H30 100.0%	H29 100.0%
経費回収率 * ※過去3年度分を記載	R1 19.7%	H30 20.3%	H29 29.0%
民間活用の状況	ア 民間委託	無し	
	イ 指定管理者制度	無し	
	ウ PPP・PFI	無し	

* $(\text{料金収入} - \text{その他営業収益}) / (\text{営業費用} + \text{営業外費用} - \text{地方債償還金}) \times 100$

(2) 料金形態

料金の概要・考え方	<p>【リフト料金】</p> <p>夏山 片道：200円、往復：360円</p> <p>冬山</p> <table><tr><td>1回券</td><td>： 200円</td></tr><tr><td>12回券</td><td>： 2,000円</td></tr><tr><td>4時間券</td><td>： 大人 1,880円、子供・シニア 1,040円</td></tr><tr><td>1日券</td><td>： 大人 2,610円、子供・シニア 1,570円</td></tr><tr><td>シーズン券</td><td>： 大人15,710円、子供・シニア10,470円</td></tr><tr><td>らくちんくん（動く歩道）1日券</td><td>： 520円</td></tr><tr><td>キッズパーク遊具1日券</td><td>： 490円</td></tr><tr><td>らくちんくん+キッズパーク</td><td>： 1,010円</td></tr></table>	1回券	： 200円	12回券	： 2,000円	4時間券	： 大人 1,880円、子供・シニア 1,040円	1日券	： 大人 2,610円、子供・シニア 1,570円	シーズン券	： 大人15,710円、子供・シニア10,470円	らくちんくん（動く歩道）1日券	： 520円	キッズパーク遊具1日券	： 490円	らくちんくん+キッズパーク	： 1,010円
1回券	： 200円																
12回券	： 2,000円																
4時間券	： 大人 1,880円、子供・シニア 1,040円																
1日券	： 大人 2,610円、子供・シニア 1,570円																
シーズン券	： 大人15,710円、子供・シニア10,470円																
らくちんくん（動く歩道）1日券	： 520円																
キッズパーク遊具1日券	： 490円																
らくちんくん+キッズパーク	： 1,010円																

(3) 施設を取り巻く環境等

霧ヶ峰リフトは八ヶ岳中信高原国定公園内にあり、付近には高原湿原やニッコウキスゲ、高原植物が群生する豊かな自然のほかに、ホテルや旅館などの宿泊施設、また、キャンプ場やスポーツ施設などの公共施設がある。

2. 経営の基本方針

夏季の観光振興および冬季のスポーツレクリエーションの振興を図り、観光振興への寄与と地域振興を図る。
安全第一で運営を進めると共に、財政負担の軽減を図るために施設の適正かつ効率的な運営を行い経費の削減に努める。

3. 投資・財政計画（収支計画）

(1) 投資・財政計画（収支計画）：別紙のとおり

(2) 投資・財政計画（収支計画）の策定にあたっての説明

①収支計画のうち投資についての説明

施設整備計画

R2 4,630千円 R3 14,930千円

（一般会計：観光総務費により霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務委託のなかで今後のあり方について検討を進める予定。）

② 収支計画のうち財源についての説明

利用者増加のための誘客促進と計画的な管理運営による歳出の削減を行い経営改善を目指す。自主財源の不足額は一般財源から繰り入れ。

③ 収支計画のうち投資以外の経費についての説明

来場者の少ない平日を定休日とし、委託費、人件費等の削減に努める。

(3) 投資・財政計画（収支計画）に未反映の取組や今後検討予定の取組の概要

① 今後の投資についての考え方・検討状況

投資の平準化に関する事項	施設の改修については定期的・計画的に修繕等を行う。
施設等の統合・縮小・廃止に関する事項	霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務のなかで検討していく。
防災・安全対策に関する事項	定期的・計画的に修繕等を行う。
民間の活力の活用に関する事項 (PPP・PFIなど)	霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務のなかで検討していく。

② 今後の財源についての考え方・検討状況

料金単価に関する事項	社会情勢を見ながら単価の検討をしていく。引き続き地元旅館組合等と共同で誘客促進のための料金設定等を行う。
利用状況に関する事項	引き続き利用者増加を目指して誘客促進策として市内小中学生向け優待券やシニア向け優待券等の配布を行う。また、市内小学校のスキー教室の受入れ対応を行う。
繰入金に関する事項	引き続き誘客促進策と歳出の削減を行い経営改善を目指す。不足額は一般財源から繰り入れを行う。
資産の有効活用に関する事項	霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務のなかで検討していく。

③ 投資以外の経費についての考え方・検討状況

民間の活力の活用に関する事項 (指定管理者制度、PPP・PFIなど)	霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務のなかで検討していく。
職員給与費に関する事項	営業日数や人員配置などを検討し経費削減を目指す。
委託費に関する事項	営業日数や人員配置などを検討し経費削減を目指す。

4. 公営企業として実施する必要性など

事業の意義、提供するサービス自体の必要性	夏山リフトは、涼しい高原の気候と雄大な景色が見られ、冬山リフトでは市内だけでなく関東、中京エリアなどの都市部からも初心者向けのスキー・スノーボードの練習の場として、また、小さい子供のソリや雪遊びの場として利用されており、霧ヶ峰の観光振興へ寄与している。
公営企業として実施する必要性	設置当初は経済発展のさなかであり、スキー場の利用者も多く黒字経営であった。昨今はレジャーの多様化等によるスキー人口の減少や少子化等の影響からか利用者が減少し赤字経営が続いており、公営企業として実施していく必要があるか検討が必要である。

5. 経営戦略の事後検証、更新等に関する事項

経営戦略の事後検証、更新等に関する事項	霧ヶ峰高原活性化・再整備検討調査業務のなかで検討していく。
---------------------	-------------------------------

投資・財政計画
（収支計画）

（単位：千円、％）

区分		年度	平成30年度 （決算）	令和1年度 （決算）	令和2年度 （予算）	令和3年度 （予算）
収益的収支	収益的収入	1 総収益 (A)	57,440	49,055	45,214	52,014
		(1) 営業収益 (B)	11,636	9,683	12,517	10,127
		ア 料金収入	11,570	9,634	12,367	10,017
		イ 受託工事収益 (C)	0	0	0	0
		ウ その他	66	49	130	110
		(2) 営業外収益	45,804	39,372	32,697	41,887
	ア 他会計繰入金	45,732	39,318	32,446	41,636	
	イ その他	72	54	251	251	
	2 総費用 (D)	57,440	49,055	45,214	52,014	
	(1) 営業費用	57,325	48,758	44,368	51,235	
	ア 職員給与費	6,421	6,396	7,557	7,737	
	うち退職手当	0	0	0	0	
イ その他	50,904	42,362	36,811	43,498		
(2) 営業外費用	115	297	846	779		
ア 支払利息	0	0	0	0		
うち一時的借入金利息	0	0	0	0		
イ その他	115	297	846	779		
3 収支差引 (A) - (D) (E)		0	0	0	0	
資本的収支	資本的収入	1 資本的収入 (F)				
		(1) 地方債				
		うち資本費平準化債分				
		(2) 他会計補助金				
		(3) 他会計借入金				
		(4) 固定資産売却代金				
		(5) 国（都道府県）補助金				
	(6) 工事負担金					
	(7) その他					
	2 資本的支出 (G)					
	(1) 建設改良費					
	うち職員給与費					
(2) 地方債償還金 (H)						
(3) 他会計長期借入金返還金						
(4) 他会計への繰出金						
(5) その他						
3 収支差引 (F) - (G) (I)		0	0	0	0	
収支再差引 (E) + (I) (J)		0	0	0	0	
繰入金 (K)		0	0	0	0	
前年度からの繰越金 (L)		0	0	0	0	
前年度繰上充用金 (M)						
形式収支 (J) - (K) + (L) - (M) (N)		0	0	0	0	
翌年度へ繰り越すべき財源 (O)		0	0	0	0	
貸倒収支 (P)		0	0	0	0	
(N) - (O) (Q)		0	0	0	0	
赤字比率 $(\frac{Q}{N}) \times 100$		0	0	0	0	
収益的収支比率 $(\frac{A}{E}) \times 100$		100	100	100	100	
地方財政法施行令第16条第1項により算定した 資金の不足額 (R)						
営業収益－受託工事収益 (B) - (C) (S)						
地方財政法による 資金不足の比率 $(\frac{R}{S}) \times 100$						
健全化法施行令第16条により算定した 資金の不足額 (T)						
健全化法施行規則第6条に規定する 解消可能資金不足額 (U)						
健全化法施行令第17条により算定した 事業の規模 (V)						
健全化法第22条により算定した 資金不足比率 $(\frac{T}{V}) \times 100$						
他会計借入金残高 (W)						
地方債残高 (X)						
○他会計繰入金						
区分		年度	平成30年度 （決算）	令和1年度 （決算）	令和2年度 （予算）	令和3年度 （予算）
収益的収支分			45,732	39,318	32,446	41,636
	うち基準内繰入金		0	0	0	0
	うち基準外繰入金		45,732	39,318	32,446	41,636
資本的収支分			0	0	0	0
	うち基準内繰入金		0	0	0	0
	うち基準外繰入金		0	0	0	0
合計			45,732	39,318	32,446	41,636